

台風21号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H30-9
平成30年9月3日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

現在、非常に強い台風第21号は、南大東島の東北東約220kmを時速20キロの速さで北北西へ進んでいます。

今後、石川県には4日（火）夕方から夜にかけて最接近する進路予想となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

〈要旨〉

- 1 露地ほ場を中心に前回の大雨による被害状況を確認するとともに、大雨に備え、再度、排水路を点検・連結するなど、排水対策を徹底する。
- 2 水稻の収穫期となっているほ場は、可能な限り刈取作業を進める。また、倒伏した稲は、穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水対策に努める。
- 3 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを下ろし、破損箇所を速やかに補修するとともに、ビニールのバタつきを防ぐため、ハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を実施する。
- 4 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- 5 棚栽培の果樹では、風圧による棚の上下動によって落果が起きるので、支柱・アンカー等で棚面を固定する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水 稲

現在、早生の一部及び中生は収穫期、晩生は登熟後期～収穫直前となっている。
(9月3日現在)

(1) 事前対策

- ① 収穫適期となっている圃場は、可能な限り刈取作業を進める。

(2) 事後対策

- ① 倒伏した圃場は、登熟不良や降雨による穂発芽の発生が懸念されるため、圃場の排水対策を徹底する。
- ② 収穫適期となっている圃場は、圃場ごとの刈取適期を見極め、順次、速やかに刈取作業を進める。
- ③ 胴割粒、着色粒の発生による等級低下を防ぐため、被害を受けた部分（圃場周囲などの粃ずれ）を可能な限り分別し、収穫・調製を行う。
- ④ やけ米防止のため、収穫した生粃はすみやかに乾燥機に張り込み、通風を行う。生粃を4時間以上放置することは避ける。特に高水分粃では注意する。

2 大豆

現在、子実肥大期となっており、強風や豪雨による茎葉及び莢の損傷に注意が必要な時期である。（9月3日現在）

（1）事前対策

- ① 降雨が予想される場合は排水溝を点検・連結しておく。

（2）事後対策

- ① 大雨となった場合は、台風通過後速やかに排水対策を徹底する。
- ② 莢擦れにより汚損粒の発生が懸念される場合は殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

（1）事前対策

① 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、葉ぼたん等）

- ア 大雨に備え、再度、ハウス周囲の排水溝を点検・整備し、施設内の浸水に備える。
- イ 施設内に風雨が吹き込まないように、サイドのビニールを下ろし、破損箇所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を早急を実施する。
- ウ 換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムがばたつかないようにする。
- エ 施設内が高温になると、葉や生長点が焼ける恐れがあるため、頭上から噴霧散水して作物体温やハウス内の温度を下げる。

② 露地野菜・花き（ねぎ、きく、葉ぼたん等）

- ア 再度、ほ場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- イ なすや豆類などの棚仕立ての品目では、筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲の杭等と棚を固定し、棚全体を固定・補強する。
- ウ 砂丘地のだいこん、にんじん、かんしょ等では、飛砂防止のために防風ネットの設置や寒冷紗のべたがけをする。降雨がない場合は、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。
- エ なすやきゅうりなどの果菜類では、収穫可能なものは早急に収穫する。
- オ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。
- カ きくや葉ぼたんなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。

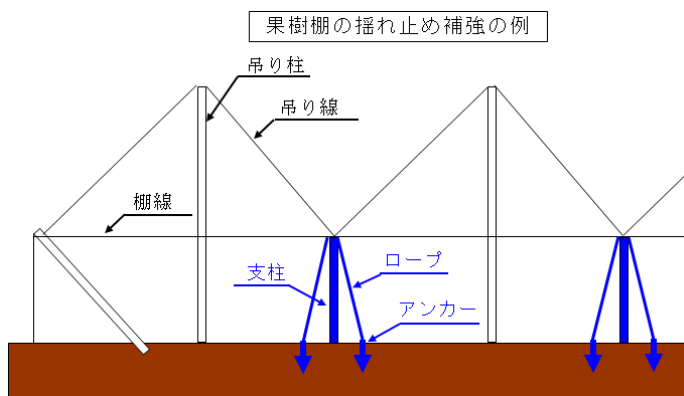
(2) 事後対策

- ① 豪雨によりほ場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等で強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による防除を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。特に露地ぎく、葉ぼたんでは起こすのが遅れると茎が曲がり、元に戻らなくなるので注意する。

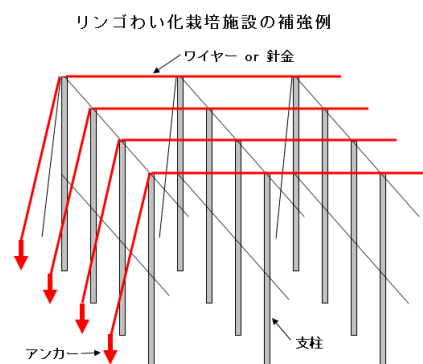
4 果樹

(1) 事前対策

- ① 収穫期に入っているなし、ぶどう等では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。



- ④ なし、キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑤ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。
- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかりと固定する。
- ⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要



である。

- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。

（２）事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産

（１）事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

（２）事後対策

- ① 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

（１）事前対策

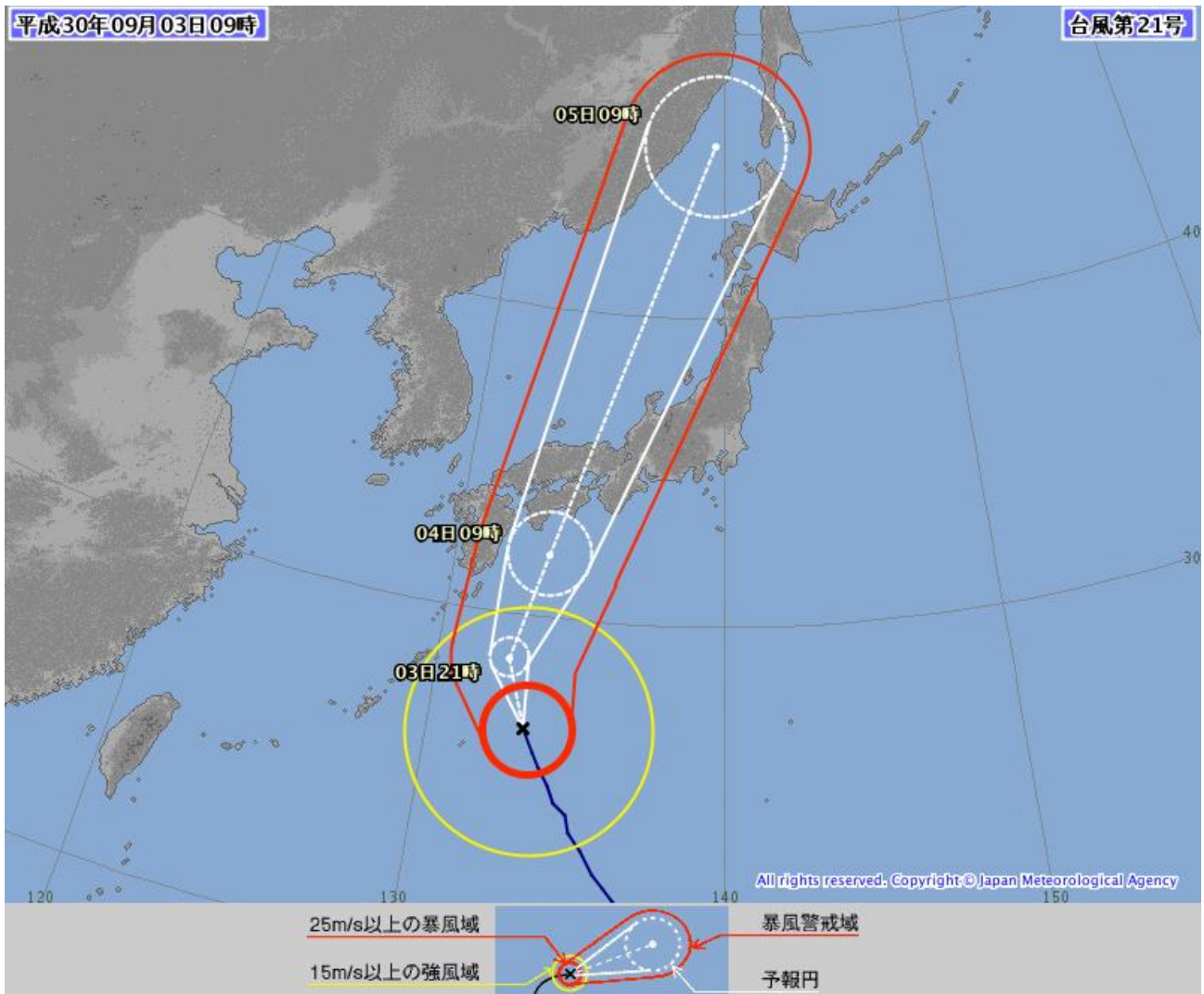
- ① 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水対策を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。
- ③ 飼料用とうもろこしについては、天候に応じ糊熟期以降であれば一部収穫の前倒しを検討する。

（２）事後対策

- ① 倒伏したソルガムは、速やかに収穫し品質の低下を防ぐ。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せずに登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。
- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

Ⅲ 気象の概況

台風の進路予想



〈03日09時の実況〉	
大きさ	-
強さ	非常に強い
存在地域	南大東島の東北東約220km
中心位置	北緯 26度35分(26.6度) 東経 133度10分(133.2度)
進行方向、速さ	北北西 20km/h(12kt)
中心気圧	940hPa
中心付近の最大風速	45m/s(90kt)
最大瞬間風速	65m/s(130kt)
25m/s以上の暴風域	東側 170km(90NM) 西側 130km(70NM)
15m/s以上の強風域	東側 440km(240NM) 西側 390km(210NM)

